

成人女性脊柱側弯症 一症例の報告



公益社団法人 長野県柔道整復師会
原接骨院 原 隆

日本柔道整復接骨医学会 COI開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

筆頭演者：原 隆

【目 的】

これまで脊柱側弯症の施術について、主に重度の症例に対しRHPI療法、装具療法、体操療法を用いた症例報告を本学会で発表してきたが、容易に再現することが難しいとの指摘を受け、今回はCobb角 20° 以下の比較的軽度の症例に対し、体操療法のみで改善効果と再現の可能性について検証した。

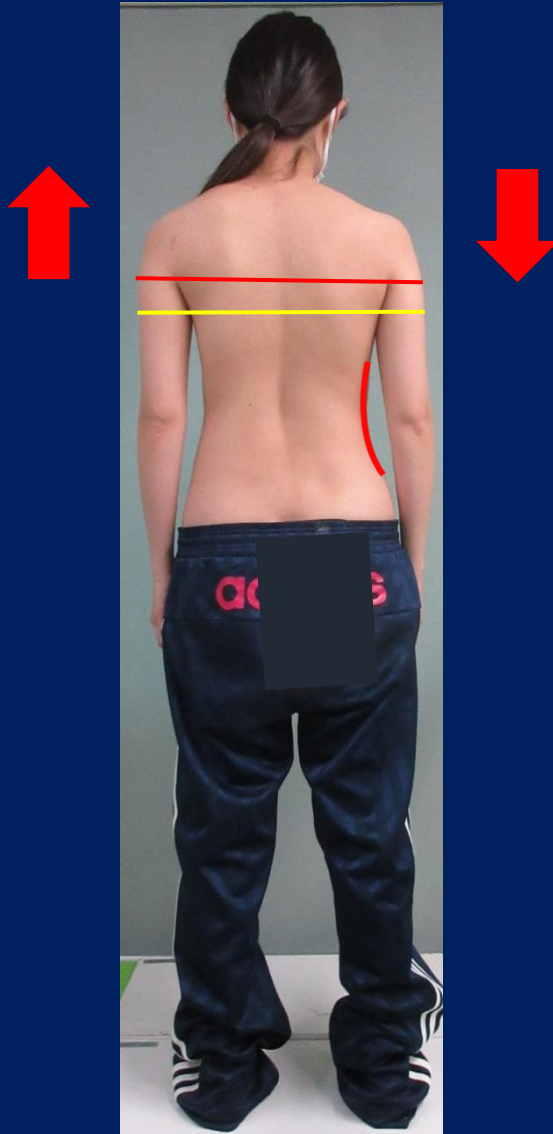
【対 象】

GM : 25歳、3児の母

初検 : 2024年1月7日

現病歴 : 学校検診では異常がなく就職後の健康診断で側弯症を指摘される。その後、自覚症状がないため様子を見るが気になったため2023年12月23日、整形外科を受診したところ、脊柱側弯症の診断を受け、当院を紹介される。

【初検時】



令和6年1月7日



主胸椎右側弯

Cobb角 (Th5~10) **15.0°**

主腰椎左側弯

Cobb角 (Th10~L3) **13.0°**

令和5年12月23日

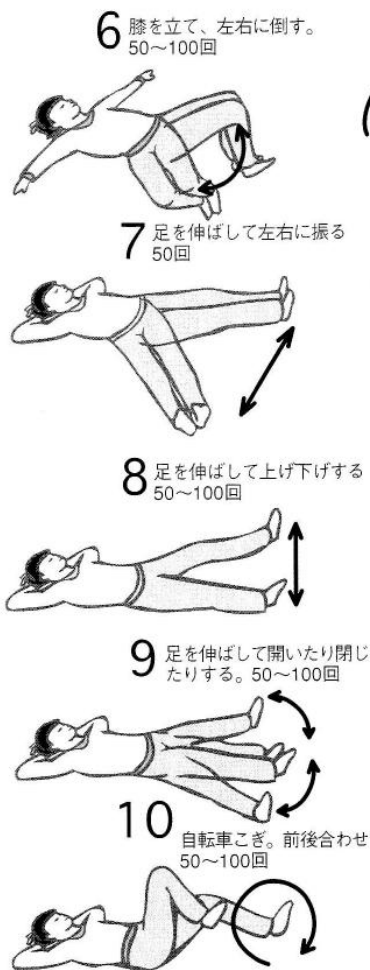
【方 法】

大塚乙衛氏考案の抗重力筋等の強化ならびに正中線を基準に、左右差の改善等が可能な「側弯症改善大塚式鍛錬体操」15種類の体操（以下、体操療法）を自宅で毎日行う（30分程度）以外に、2週間に1回程度、定期的に観察ならびに修正点を指導をした。検証方法としては初検時と、およそ7カ月半後のX線検査及び立位背面の外見所見を比較した。

【体操療法】

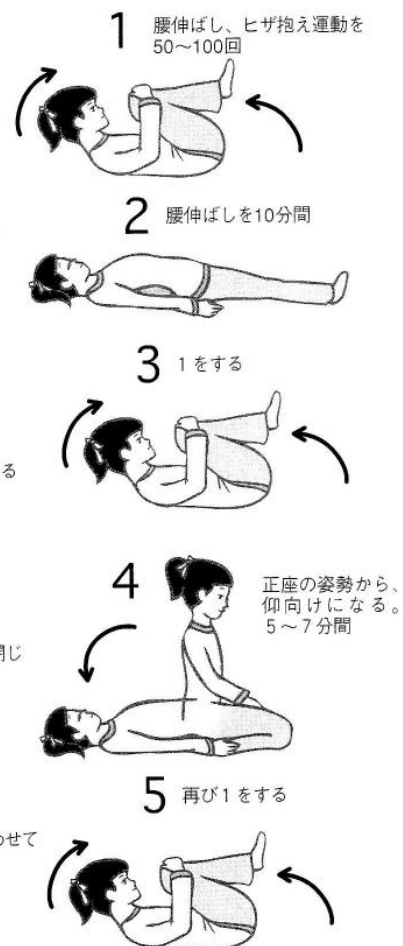
鍛練運動

入浴、夕食前に行う



基本運動

特に、就寝前に行うとよい



【体操の一例】



目的：体幹の伸展

自然肢位



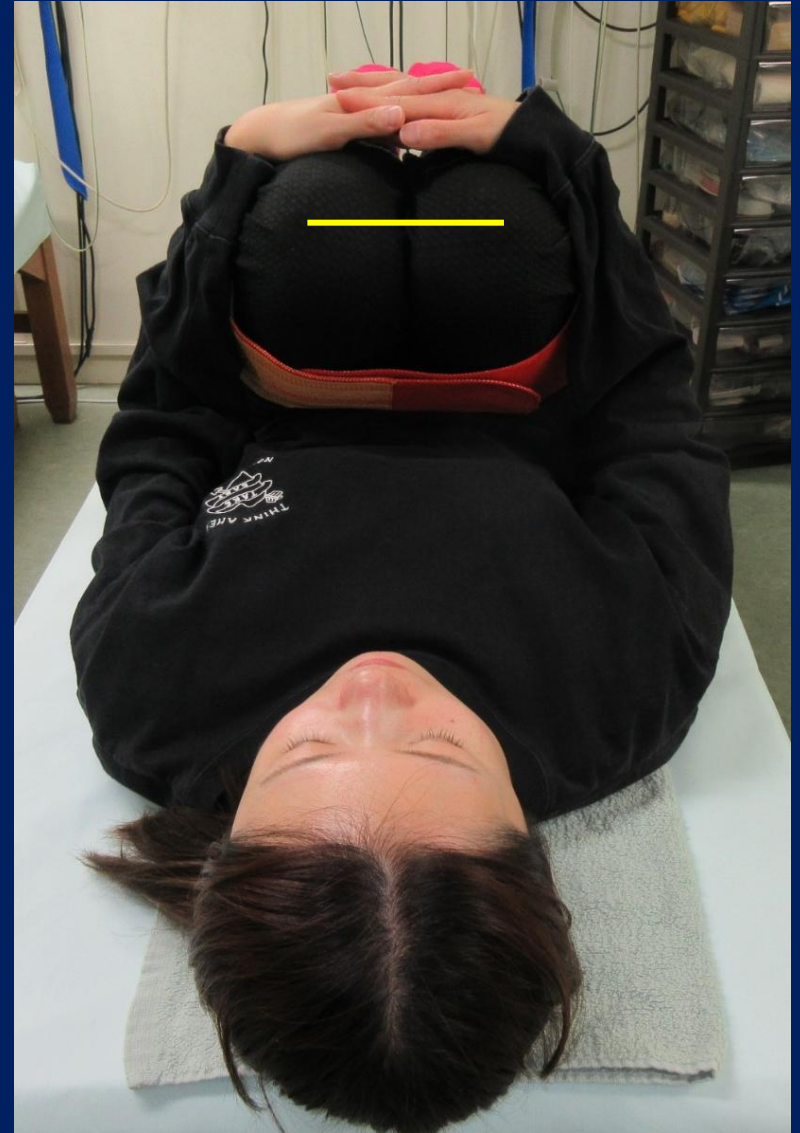
指導後の肢位



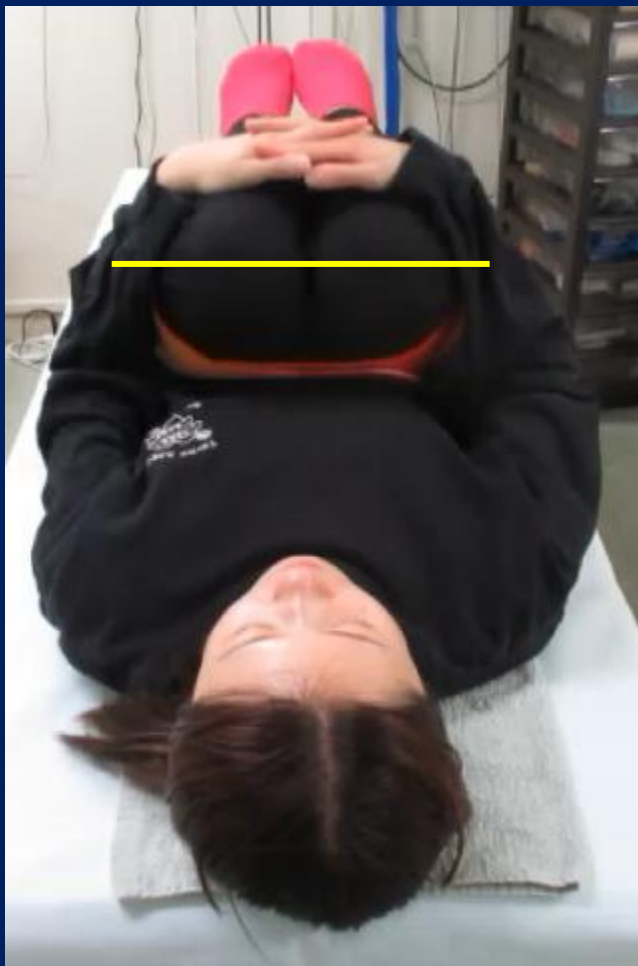
自然肢位



指導後の肢位



【体操指導の一例】

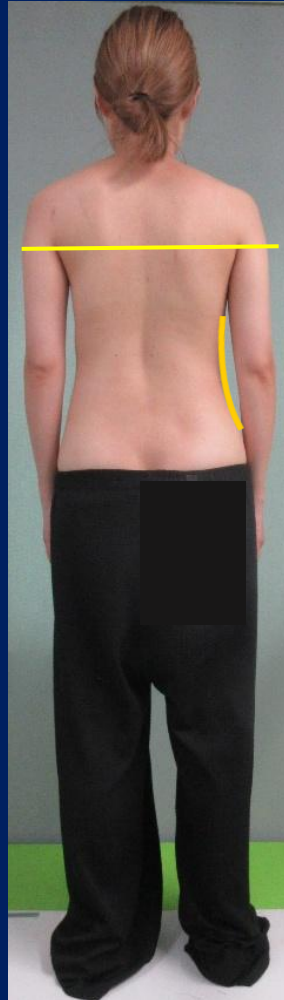


外見所見 【結果】 X線所見

【初検時】



令和6年1月7日



令和6年8月25日



主胸椎右側弯

Cobb角 (Th5~10) 15.0°

主腰椎左側弯

Cobb角 (Th10~L3) 13.0°

令和5年12月23日



主胸椎右側弯

Cobb角 (Th5~10) 16.0°

主腰椎左側弯

Cobb角 (Th10~L3) 6.0°

令和6年8月24日

【考 察 1】

この症例は3人の育児に加え、1人が入院したことにより1ヶ月程度体操を中断したにもかかわらず主腰椎Cobb角が半減できたことは、体操効果の立証および同程度の症例に対し、的確な指導の下であれば再現の可能性も示唆されたと思われる。

一方で、X線所見で主胸椎Cobb角の変化が認められなかったことに関しては、追究の必要があると考えらる。

【考 察 2】

追究の結果、主胸椎の改善が認められなかった要因の一つとして、本症例の場合、胸椎側弯に対するアプローチに脊柱起立筋等を強化し矯正させる体操があるが、育児期は毎日のようにおんぶや抱っこなど背筋にかかる負担が大きくそれが3人に加え、体操ができない日も重なり効力が低下したのではないかと推察できる。

【 結 語 】

1. 本症例に対し体操療法は有用ではあり、同様の症例に対し再現可能性が示唆された。
2. 本療法は、定期的な検査が重要なため整形外科医との連携が必要不可欠である。
3. 体操療法は、継続の重要性と自己流になることを防ぐため定期的な確認、指導が必要である。

